

KSKS

No.113

21.6.27

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告

「機能的な連携・
応えるべきニーズとは」
理事 庄野 千恵子 … 1

◆Reports

◇ゆいの会利用者実態調査 … 2
◇報酬改定の影響について … 4

◆Reports

ぽすと … 4
きらく舎/こもれび地活 … 5
こもれびB型/こもれび生訓 … 6
地活歩っと/D-PORT … 7
ぐっと・たいむ … 8

機能的な連携・ 応えるべきニーズとは

爽やかな初夏を感じる間もなく、観測史上最も早い梅雨入りになりました。

さて、2020年度利用者実態調査の結果は2~3面で報告しています。今回は訪問系事業の利用者も対象とし、事業所別集計もとりました。

事業所別集計の利用期間の項目では、通所事業所は、開設年度が古いほど長期利用者が多い傾向が見られました。自宅以外に安心安全で支援関係が続く場所として通所事業所が果たしてきた役割がある一方で、そこしかない生活になっているとすれば、支援のあり方を考える必要があります。また、利用者の平均年齢も少しずつ高くなってきて、現在は50.2歳です。精神障がいにて化した生活課題に加え、高齢化による生活課題が少しずつ見えてきた人も出てきています。支援方法を考える中で、介護保険サービスとの関連が課題になることもしばしばあります。精神障がいのある人たちが介護保険サービスを利用する際の課題はどこにあるのか、ゆいの会が担い続けるべき支援とは何か、高齢メンバーの支援についての検討は急務です。障害者自立支援法施行以降、サービス利用は細分化、縦割りの支援体系となりました。事業所ごとの支援内容の範囲もあり、単独で支援できないことは、法人内外の他事業と連携してきました。しか

し、それぞれが事業の枠組みを意識し過ぎて利用者のニーズを把握できていなかったり、自分たちが対応すべきニーズではないと思い込んでしまったりしていないかと考えることもあります。また、複



数の支援者が関わっている場合のケアマネジメント機能や、支援者間で意思疎通が取れるためにどうすれば良いのかという課題もあります。

天理市にあるこもれびでは、複数の事業所が寄り集まっているという特性から相談支援を中心として、集う場、働くことを支援する活動、訪問型支援があるという形が作られています。マネジメントを中心に細分化・専門化した事業形態による支援ではなく、重なる部分を持ちつつそれぞれの範囲を理解して協働しています。連携のあり方について、こもれびの形はひとつの例ですが、それぞれの機能・役割の活かし方なども含め、事業展開を考える材料にしたいと思います。

各事業所では日々、利用者のニーズに応じようと業務に臨んでいますが、数字で見る各事業の現状やサービスの併用状況、生活状況の傾向からは新たな気付きがあります。実態調査の結果はスタッフで共有し、今後の事業運営に役立てるため、新たに検討のためのワーキングチームを立ち上げます。
(庄野千恵子)

Reports

2020年度 利用者実態調査 相談・訪問・通所利用者の状況は

ゆいの会は、利用者の生活実態を把握することで、ゆいの会の今後の活動や取り組みにつなげていくことを目的に、実態調査を行なっています。2020年度については、利用者への聞き取りではなく、事業所ごとにスタッフが利用者の基本属性(性別・年齢・居住地・居住形態・生活形態・利用サービス・収入の状況など)や医療受診状況、事業所利用年数について取りまとめる形での調査となりました。

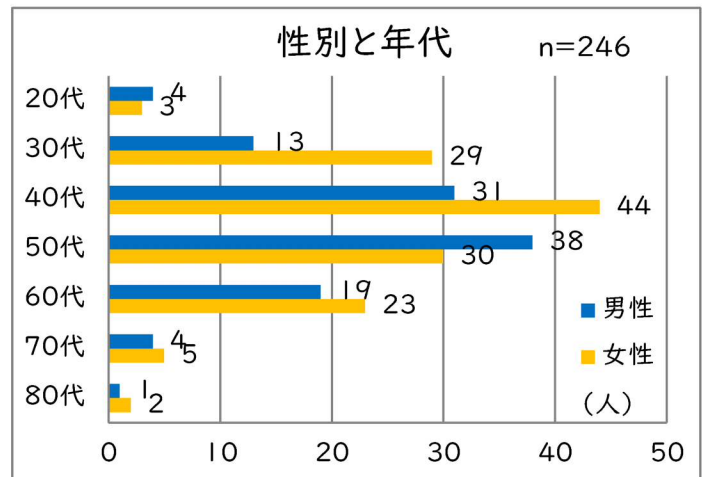
例年、通所事業所のみ対象としてきましたが、今回は相談支援事業所や訪問系(居宅介護、訪問看護)の利用者についても行ないました。(詳細は『2020年度 社会福祉法人寧楽ゆいの会 活動の概要』を参照ください。)

対象者は2020年12月末時点で寧楽ゆいの会全11事業所の利用者246人で、内訳は「さわやぎ」15人、「きらく舎」12人、「ぼすと」39人、「就労継続B型こもれび」18人、「生活訓練こもれび」13人、「地域活動支援センター歩っと」42人、「地域活動支援センターこもれび」23人、「居宅介護事業所ぐっど・たいむ」58人、「訪問看護ステーションゆいゆい」47人、「相談支援事業所歩っと」67人、「相談支援事業所こもれび」20人(併用者含む)。

【性別と年齢】

全体の平均年齢は50.2歳でした。性別では男性110人(44.7%)、女性136人(55.3%)と、女性のほうが多い結果でした。

通所系の利用者についてのみ20年前と比較すると、2000年度調査では平均年齢39.6歳、男性66.7%、女性33.3%(人数詳細不明)だったのに対し、2020年度は平均年齢48.8歳、男性83人(55.7%)、女性66人(44.3%)と、性別での差が縮まっていることがわかります。また、地域活動支援センター以外の事業所は全て女性の利用者のほうが多い結果となりました。

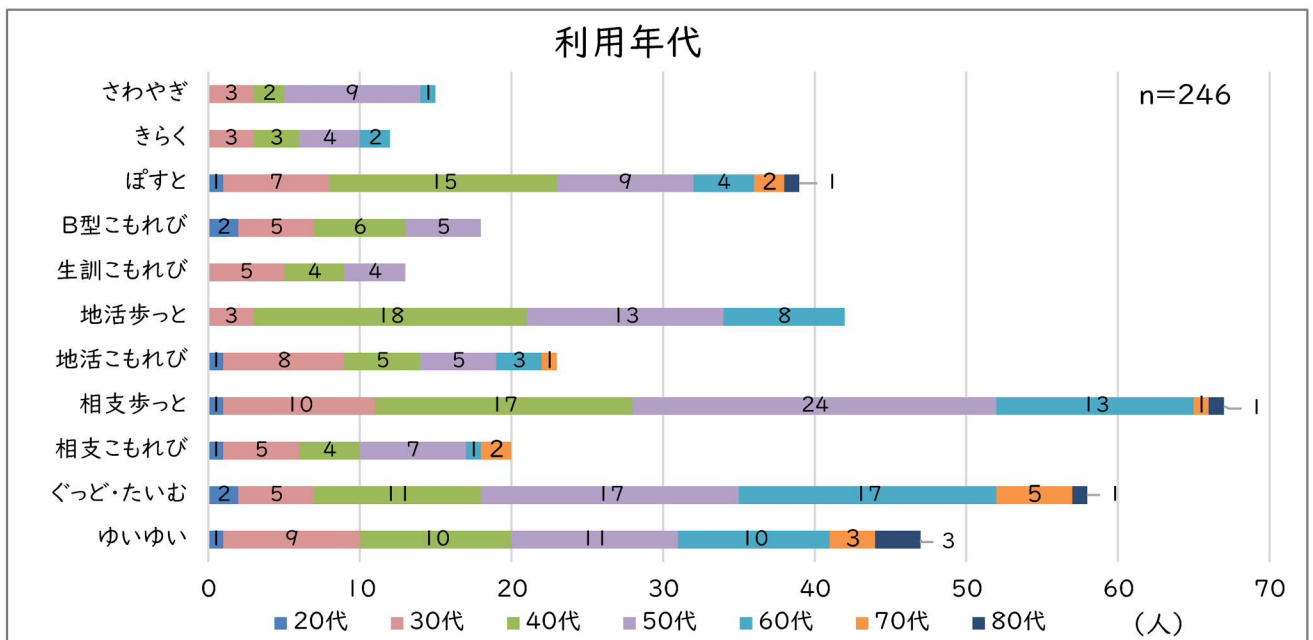


【事業所ごとの年代】

事業所ごとに利用者の年代を見ると、相談系・訪問系の事業では幅広い年代をカバーしており、また50代以上が多いことがわかります。

	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男性	51.0歳	28歳	80歳
女性	49.5歳	20歳	85歳
全体	50.2歳	20歳	85歳

利用年代



【生活形態と居住形態】

生活形態と居住形態を見ると、「持ち家に家族と同居する人」が105人(42.6%)と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅に一人暮らしをする人」が73人(29.6%)でした。

家族と同居をしている人のうち、誰と同居しているかを見たところ、最も多かったのが「両親」35人(25.5%)、次いで「母のみ」29人(21.2%)、「親ときょうだい」「配偶者」それぞれ17人(12.4%)という結果でした。

さらに、同居している人を年代別でみたところ、最も多かったのが「40代で両親と同居」が18人(13.1%)、次いで「30代で両親と同居」「50代で母親と同居」がそれぞれ10人(7.3%)とあります。

従来から危惧されてきた、利用者とその家族の高齢化による生活の困難が既に法人内でも現れてきています。2021年度は、例年通り全利用者への聞き取りを行ない、高齢期の利用者の実態を明らかにするための調査を行なう予定です。(大田雅子)

